

## 中米ホンジュラスの養護施設に JICA の「世界の笑顔のために」のプログラムに沿って寄贈しました

本年 2 月初旬に、JICA(国際協力機構)の青年海外協力隊の作業療法士である田村久美子様から「赴任地のホンジュラスの施設で世話をしている肢体不自由児のために車椅子を送って欲しい」との要望を受けました。

JICA の推進する「世界の笑顔のために」というプログラムに沿って、子ども用車椅子を送ることを決め、清掃と整備の作業を進めました。

3 月から現地での治安が悪化したために、同国から JICA の職員が撤退を余儀なくされ、当会からの寄贈が危うくなりましたが、ホンジュラスの肢体不自由児の生活改善に寄与したいという願いを共有する田村作業療法士が同国を離れる前に、現地人職員をしっかりと訓練していただいた結果、何らの不安を抱かずに、6 月 5 日に、車椅子 22 台（内、座位保持装置 5 台と立位訓練具 2 台）、下肢装具 6 足、歩行器 2 台に加えて日常管理用に空気入れ 1 台と虫ゴム 50 個を添えて、東京芝浦埠頭の JICA 指定倉庫に納入しました。



芝浦埠頭で車椅子を納入（1）



芝浦埠頭で車椅子を納入（2）

それが 4 か月を経て 10 月中頃に現地に到着、脳性まひ児童養護施設で子供たちの使用に供されたという知らせを受けました。

そして、このたび、日本語訳付の丁寧な礼状が JICA の東京本部を經由して当会に届きました。

また、新任地エルサルバドルで活躍中の田村作業療法士からも丁寧な礼状を頂戴しました。

同封された写真にて施設内で車椅子に乗って生活する子供たちの様子を見ると、地球の裏側の中米の人口 800 万人弱の国の福祉に貢献できているという実感を覚えます。

添付の写真は、礼状と子供たちの様子です。





